



もう聞けない言葉に 耳を澄まして

映画監督

和島香太郎 さん



映画「梅切らぬバカ」は、50歳を迎える自閉症の息子とその母親の暮らしを描いています。この映画をつくったのは、親御さんが亡くなられた後、残された家で一人暮らしをしている発達障害の男性の日常を描いたドキュメンタリー映画に携わったことがきっかけです。ドキュメンタリーには母親の姿は出てきませんが、僕はその方が残した家に入りして撮影させていただきました。家の中には仏壇があって、それを見るたびに「お母さんはどういう思いで亡くなられたのかな」とずっと考えていたんです。もう話を聞くことはできないですが、やはり息子さんを一人残して亡くなられているので、生前親族に頼ったわけでもなく、お隣さんに相談できていたわけでもなかったと思うのです。そんな母の思いにも追りたいと映画の脚本を書きました。



©2021「梅切らぬバカ」
フィルムプロジェクト

「梅切らぬバカ」11月12日（金）より
シネスイッチ銀座ほか全国ロードショー
配給：ハピネットファントム・スタジオ

息子・忠さん役の塚地武雅さんとは、一緒にグループホームの取材に伺いました。そこで自閉症の男性が街中で流れているアナウンスをまねされていたのですが、その言葉をずっと聴いていた塚地さんが、「これは女性の声だから、もしかしたらあぁいった場所の声をこの方は聞いているのかもしれないなあ」とやさしく冷静に自閉症の方の世界にアプローチしようとしていた姿が印象的でした。

母・珠子役の加賀まりこさんにオファーしたときには、シナリオを読んだ感想を聞くとやけに詳しくて。パートナーのお子さんが自閉症をもっていると後から知りました。加賀さんには、「ありがとうっていう台詞がないわよね」とシナリオにダメ出しをされたことがあります。その後、一人で自閉症のお子さんを育ててきた方にもシナリオを読んでもらうと、「ありがとうって言葉がほしいな」と一言だけおっしゃって。加賀さんのほうが母の立場に近いところにおいて、時間をかけて考えてくださっていると感じた出来事でした。僕自身、これから生きていく上でとても大事なことを学んだ作品です。 （談）

わじま こうたろう / 2014年、初監督作「禁忌」が劇場公開。映画「欲動」、「マンガ肉と僕」の脚本を担当。てんかんをもつ自身の経験から、てんかんと付き合いながら生活をしている人たちの思いを発信するネットラジオ「てんかんを聴く ぼつラジオ」を制作・配信している。